

子ども感性伸ばす

現代芸術教室アートイズ(八戸) 100回目

子どもたちに気軽にアートを楽しんでもらおうと、八戸市で2014年発足した現代芸術教室「アートイズ」。月2回のペースで開催してきたが、5年目となる今年、100回の節目を迎えた。子どもの感性を重視し、粘土や木工品などを題材とした自由度の高い

自由な創作活動好評

創作活動が好評。口コミで評判が広まり、これまで延べ約2千人が参加するまでになった。代表を務める八戸学院大短期大学部講師の佐貫巧さん(38)は「アートに正解はない。子どもたちが好きなように芸術と触れ合ってもらい」とアピールしている。(小嶋嘉文)

子どもが安全にアートに触れ合える場をつくらうと、佐貫さんが中心となって発足。30代で八戸短大(当時)に学生として在学した「教え子」として出会った沼尾大伸さん(41)と三沢第一幼稚園副園長との協力を得ながら、主に3〜10歳を対象に行っている。教室では、タンポポやツツを画用紙にこすりつけたり、絵の具入りの水風船を板にぶつけたりして、現代的アートに親しみながら作品作りを取り組む。ユニークな活動からリピーターも多い。15年からは、市新美術館建設推進室と連携し、仙台市や岩手県大船渡市での「出張アートイズ」も企画するなど、活動の場を年々広げている。



「子どもが思いっ切りアートを楽しむ場はまだまだ少ない」と沼尾さん。「小さい作品を生み出すため、刺戟を受けることが多い」とこれまでを振り返る。「きれいに塗れたよ」「僕のも見て」「かわいいでしょ」。4日、八戸市三日町の八戸ニューポートで開かれた100回目の教室。市内外から約20人が参加し、会場には子どもたちの笑顔と元気な声があふれた。この日の題材は、オリジナル植木鉢作り。佐貫さんは「アートとの偶然の出会い、鉢合わせ」を楽しんでほしい」と願いを込めた。子どもたちはキャンパスに見立てた植木鉢と向き合いながら、赤や青、ピンクなどさまざまな色の絵の具を使って、花柄やしま模様を描き、世界にたった一つの作品に作り上げた。アートイズの活動について、佐貫さんは「子どもにとって社会と関わる第一歩。子どもが本来持っている感覚を伸ばすほかに、周りの子どもたちと接し、どう成長していくかも見えて楽しい」と強調。今後に向けて「100回はまた通過点。もっと多くの子どもたちにアートの魅力を伝えていきたい」と力を込めた。

100回目を迎えた現代芸術教室「アートイズ」。自由度の高い創作活動が好評だ
4日、八戸市